

ロイアル・コレジズについて

栗本 宗治

ロイアル・コレジ・オブ・フィジシャンズ・オブ・ロンドンについては、すでに本学会において発表した。

一六世紀 *divinity, law, physic* はいわば社会の制度としての形成をみるが、*university* を含め相関が注目される。カンパニ・オブ・サージョンズとソサイアティ・オブ・アポセカリはシティ・オブ・ロンドンのカンパニ（ギルド）との関係があった。一八〇〇年ロイアル・コレジ・オブ・サージョンズ・オブ・イングラントは勅許を得た。

一九世紀に入って大学は増設され、一八五八年新メデイカル・アクトにより医師資格としてオクスブリジの学位同様に新大学学位およびコレジズの免許をみとめ、一方ゼネラル・メデイカル・カウンシルを新設して教育の調整と医師登録を行うことになった。

一六世紀救貧法は今世紀に至るが、イギリス産業社会の

重要な制度であった。一九世紀における貧困と疾病などの調査が行われた。

ベバリッジ（オクスフォード）の『失業論』（一九〇九）、第一次大戦前後の混乱からのケインズ（ケンブリジ）の『貨幣論』（一九三〇、三六）などを介して社会保険、福祉への考え方、コンセンサスは次第につくられた。自由党首相ロイド・ジョージ、蔵相チャーチルは大きな関心を示した。第二次大戦さなかベバリッジ・レポートはイギリス国民にとって未来への希望となり、一九四四年ブレトン・ウッズにおけるケインズの戦後処理案は戦後の支柱となった。一九七〇年代ベバリッジやケインズの是正の要が指摘され、今EC統合など、転換期にある。

ロイド・ジョージの侍医はドースン卿、チャーチルの侍医はモーラン卿、ともにロイアル・コレジ・オブ・フィジシャンズのプレジデントであった。ベバリッジ・レポートをもとにした一九四六年ナショナル（全国民をカバーする）・ヘルス・サービス立法にはロイアル・コレジの役割が注目される。

ヘルス・サービスは医師側にも変容をもたらした。コレ

ジ・オブ・フィジシャンズから精神科、放射線科、病理が、コレジ・オブ・サージヨンズから産婦人科が独立してそれぞれのロイアル・コレジをもち、またコレジ・オブ・ゼネラル・ブラクティシヨナが新設された。麻醉科はロイアル・コレジ・オブ・サージヨンズ内にあるが、昨年コレジ・オブ・アナステテイスツを結成した。近い将来独立ロイアル・コレジが志向されている。

ロイアル・コレジズの活動は広い。しかし一六世紀にはじまる機能は一貫して試験機関である。近年医学校は地域医師の卒業生涯教育をも担当することになった。かつてロイアル・コレジズは医育面でも機能したが今日試験機関としての原点に返りつつある。試験合格者をもって構成するロイアル・コレジはイギリス近代社会における制度モデルと目されてきた。すなわち大学学位(ディグリ)と職能コレジの免許(ディプロマ)は肩書に併記されるが、イギリス固有の制度が徴表される。

今欧州大陸との関係が論をよぶ。ロイアル・コレジズにも徐々に動きがある。

(大阪医科大学)

佐賀県立病院(好生館)の御雇外国 人医学教師

高 安 伸 子

佐賀藩の医学教育は、文化四年(一八〇七)古賀教堂が藩主鍋島斉正公に医学教育の必要性を説き、天保五年(一八三四)に仮設の医学館が八幡小路に建てられたことにはじまる。その後、安政五年(一八五八)八月、佐賀市八幡小路に正式に医学校が設立され、蘭方医学を中心とした教育が行われた。設立当初の教師は、教導方差次に緒方洪庵の門人渋谷良次、指南役に宮田魯齋、浅田宗俊、指南役差次に高木玄堂、上村春庵、高木玄哲、医学寮係り合に横尾文吾が任じられた。同年十月に医学寮と改称、教導方に大庭雪齋、大石良英が任じられ、同年十二月に場所を片田江町に移し「好生館」との名称となった。

明治元年(一八六八)十一月に好生館に病院設立の議が起り、翌二年四月から小規模ながら病院の組織ができた。